

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300575		
法人名	有限会社 海成水産		
事業所名	グループホーム館		
所在地	大分県大分市大字入蔵1095の4番地		
自己評価作成日	平成27年3月3日	評価結果市町村受理日	平成27年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間の田畑に囲まれた静かな環境に位置し、古民家を改造した懐かしさを感じられる住居で、四季の移り変わりを感じ、のんびりと過ごして頂ける。心も体も健康に過ごすには「食」が大切という考えから、施設長の田んぼで作った米を使用し、施設周辺で採れた山菜を使い季節感のある食事を提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=true&JkyosyoCd=4472300575-00&PrefCd=44&Vers ionCd=](http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JkyosyoCd=4472300575-00&PrefCd=44&Vers ionCd=)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府亭番館1F		
訪問調査日	平成27年3月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の田畑に囲まれた静かな環境で、事業所から望む風景に、季節の移り変わりを感ずる中、利用者はのんびりと落ち着いた時を過ごしています。施設長は食にこだわり自分の畑で栽培した野菜や山菜を中心に昔ながらの食事を、職員が手作りで提供しているのが特長です。平成14年に開設した事業所で、高齢化(平均年齢87歳)や平均介護度(4.1)と重度化が進む中、職員は利用者の現状を注視し、事業所の基本理念に立ち戻り、個々のサービスの提供をモニタリングを通し職員で検討し支援に繋がっています。利用者の気持ちを感じ笑顔で接する事や丁寧な言葉使い、感謝の気持ちを忘れず支援をしています。職員育成を課題として勉強会や内部、外部研修に参加し意識向上とともに、利用者の立場になって考えようとする姿勢や連携強化、情報の共有化及びケアの統一に努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や居間に理念を掲示している。また、毎日の申し送り後に全員で理念を唱えて共有し、実践につなげている。	家庭的な環境と地域交流を基本に「笑顔、感謝、地域活動等」と分かりやすい言葉で全職員に理念の浸透が図られています。利用者には心から笑顔で接する事で安心に繋げ、職員間では感謝の言葉を忘れずチームワークを大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	管理者、職員のほとんどが地域住民の為に日常的に交流がある。また、介護等の相談があれば誠意をもって対応している。	自治会に加入しており、管理者・職員も地元ということで、地域の情報が入り行事に参加する中で、子供みこしが玄関まで来たり、ボランティア・実習生の受け入れ、地域の介護相談等交流を充実させ、地域の中での生活を継続させています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会は少ないが運営推進会議の時に認知症の理解や支援方法の話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者やサービスの実際等について報告し話し合いを行い、行政、包括センター、地域の方々から質問や意見をいただきサービスの向上に活かしている。	各分野のメンバーで構成され、2ヶ月毎に運営推進会議が開催されています。利用者の現状やサービスの実際、取り組み等を報告し意見交換を行い、サービスに反映させています。メンバーの雑談の中から課題を見出す等有意義な会議になっています。	全家族への運営推進会議の議事録の送付を通じて、会議の持つ意味合いの更なる周知と様々な情報発信と参加の呼びかけを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいた時に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。また困った事があれば行政窓口に出かけたり、電話をして相談をしている。	行政担当窓口、事業所の情報や取り組みについて報告し、意見やアドバイスをもらい、行政との協力関係を築いています。運営推進会議に地域包括支援センター職員の出席なども含めた働きかけを検討しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を毎年行い身体拘束の理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、やむを得ず身体拘束を行っている方には毎月身体拘束検討委員会を開いて検討をしている。	身体拘束及び虐待の防止マニュアルを作成し、年1回の研修会では全職員に資料を配布し、事例を基に検討を行っています。言葉掛けに注意し、送迎時にも自宅での虐待等の状況を判断しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待の勉強会を行い虐待防止に努めている。また、施設内の虐待が見逃ごされないように職員が互いに注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年成年後見制度についての勉強会を開き理解を深めている。利用者からの相談は無いが相談があれば対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、利用者の家族等が納得のいく説明を十分に行い理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年入居者の家族にアンケート調査を行い意見・要望をいただいて運営に反映させている。また、玄関にご意見承り賜り箱を設置している。	面会時の聞き取りや家族アンケート調査等で家族の意見、要望を把握しています。出された意見等はミーティングで話し合い実践に反映されています。	運営推進会議への参加を促進し、意見や要望を出せる機会を作られることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや勉強会等で意見や提案があれば話し合い業務改善やサービス向上に反映させている。	会議やミーティングの中で、日々のサービスに対する意見や提案に耳を傾け、働く意欲の向上に努めています。管理者は夜勤で個人的な相談等を聞きコミュニケーションを図るよう心掛けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、実績を把握し各自が向上心を持って働けるように努めている。また、個々の希望を入れシフトの作成をする等働きやすい環境・条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	二カ月に一回法人内の研修を行い、法人外の研修は個々のレベルに応じ受けられるように機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会等に参加して交流する機会はあるが相互訪問等の交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人や家族と面談し、本人の現状や不安・要望を聞いて信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族と面談し、本人の現状や家族の不安・要望を聞いて信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に本人や家族と面談し本人の必要としている支援を見極め、本人の希望を重視した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度が重度化し意思疎通が出来なくなっているが、時間をつくり共に過ごし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が面会に来られた時には本人の暮らしぶりや希望を伝え、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体力低下により馴染みの場所には行けないうが、馴染みの人の面会は快く受け入れている。	重度化により馴染みの場所に出かける事が困難な状況で、受診時に自宅周辺に立ち寄り等の支援を行っています。介護度の軽い利用者は、馴染みの飲食店に行く計画を立て個別支援に努めています。	馴染みの関係継続は、生活歴や家族の情報に基づき、知人、友人、親族の方へ年賀状を出し近況報告をされる事も支援になると思われます。利用者の状態を勘案し、出来る事の支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が成立しないので、職員が利用者の性格・相性を把握し、居間の席を決めたり、誘導したりしている。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の都合で他施設に転居された方がいるが、必要に応じ相談等あれば連絡をいただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で思いや希望を表せる方は意思を尊重し、出来ない方は日々の様子や個人の性格を考慮し本人本位に検討している。	日常の会話や入浴時に、利用者の思い(本音)を把握しています。意思疎通が困難な方は、しぐさや行動から把握するよう努め、その人らしい生活が送れるよう日々の支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時にできるだけ情報を把握するようにしているが、不明な点は家族等に面会時、または電話等で確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の一日の過ごし方、体調等ケース記録に記入している。また、申し送りの時にも職員が現状把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族等の意向を聴き職員と担当者会議を行い現状に即した介護計画を作成している。モニタリングも職員と行っている。また、体調の変化、環境の変化等があればその都度見直しを行っている。	利用者、家族の意向をもとに担当者会議を行い、6ヶ月毎に見直しを行っています。担当職員は気づき変更等を申し送りノートや必ず目につく場所(ボード)に書き、職員間での情報の共有を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別にケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。また、職員間にも確実に伝わるように白板に書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体力低下等によりその時々の変化するニーズに対応して、現状に即した柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	遠出が困難になったので地域の祭りに参加したり、地域のボランティアの協力を得て楽しく豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しかかりつけ医を決めて、専門科以外の病気の時は専門医を紹介していただき受診できるように支援している。	近隣の医療機関との緊密な連携を保ちながら、利用者の必要に応じて職員同行による受診の後、家族に報告しています。特別な病状になった時確実に対応できるよう、黒板に書き記して、全員で情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在の為、日常の体調変化を見逃さず変化があれば主治医に連絡をし、適切な指示をいただき対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際安心して治療できるように、又早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。日頃からそうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の過ごし方について家族と話し合いを行い、施設でできる事を十分説明し、納得していただき、終末期に向けた方針の共有と支援に主治医と共に取り組んでいる。	終末期においては、事業所がどこまでケアできるかを家族と話し合い、入院に関しても利用者の意思を尊重した取り組みを行っています。訪問看護を入れて最期を看取り、心肺停止の時には蘇生法も行えるように訓練も行っていきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の応急手当の講習会に参加したり、毎年勉強会で急変や事故発生時の対応についての勉強をして実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年二回避難訓練や消火訓練を実施している。また、地域住民の協力が得られる体制も整っている。	マニュアルを作成し、消火器の取扱実習や救急法を年二回行っています。地区との協力体制を強めるために、お茶会等を開催した際、協力者として職員とともに、利用者の安全確保の面をお願いしたいと話合っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者のプライバシーを損なわないように職員間での話や言葉遣いに気をつけています。何気ない言葉や、禁句と言われる言葉を使用していないか研修に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり自己決定できる方には、本人の意思を尊重し自己決定できるように支援している。出来ない方にはその時々様子、性格等を考慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や意思を尊重し希望に沿ってその人らしい暮らしができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが出来る方には楽しんでいただけるように支援し、出来ない方には季節に合ったその人に似合う物を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が重度化し職員と共に仕事することは出来なくなったが季節の山菜、野菜を使用し季節を感じられる食事を楽しんでいただけるように努めている。	利用者と一緒に竹の子やふき等の皮むき等を行って季節の野菜を楽しんで食べています。利用者の好みをメニューに取り入れて、食べたくない時には時間をおいて、食べたい時に食べてもらうようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定、定期受診等で各自の栄養状態を確認し対応している。また、嚥下状態に応じミキサー、トロミ、刻み、食べる量等各自個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で行える方には見守り、出来ない方にはその方に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンにそって、昼夜を問わず声掛けや、トイレ誘導してトイレでの排泄支援を行っている。	職員間で、互いにチェック表でパターンを確認しあい、トイレ誘導がスムーズに行われています。トイレも、利用者が安全に使用できるように改良されました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事を提供し、毎日牛乳を飲む等便秘の予防に取り組み、できるだけトイレでの排便に心がけている。便秘には個々の状態に応じて便秘薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を言われない方が多いので、週二回以上の入浴を本人の気分や体調を考慮し、個々に応じた入浴支援をしている。	リフトの設置や安全にゆっくりと入浴が楽しめるよう、雰囲気作りを工夫しています。利用者の体調に合わせて入りたくない時はその意思を尊重しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良の訴えがないので顔色、バイタル等を見てその時々状態に応じ休んでいたいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬を理解し副作用や用量による変化に気配りしている。症状の変化があれば主治医に報告し支持を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや好みを把握し楽しく日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方はいないが、気候が良くなれば庭でお茶を飲んだり、歌ったり、散歩をしたりして季節を感じていただいている。本人の希望があれば家族と相談して外出支援をしたいと思っています。	重度の方も、利用者や家族の希望があれば車両や車イスで、気分転換の外出をしています。時間帯も、利用者の希望にそって買い物や近所へ外出を支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人だけお金を所持しているが最近を使うことを忘れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度化し手紙のやり取りや電話をする方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で体温調整ができないので、湿温計を設置し快適に過ごせるようにしている。また、季節の花を玄関、居間、居室等に活ける等して季節感を感じられるように工夫している。	利用者が安全安心に過ごしてもらう為に、危険と思われる堀ゴツツやソファを取り除き、家具の配置等も利用者の関係性を考慮して変えています。窓から見えるパノラマの風景を喜んでもらっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の席は利用者の相性、性格、健康状態を考慮して決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時に使い慣れた家具等を持ち込み、居心地良く過ごせるように支援している。また、行事がある毎に写真を撮り自室の壁に貼っている。	利用者の馴染み深い品物を、好みの場所に配置し、行事の時の写真等も目につきやすい場所に貼っています。居心地の良い居室にする為に何でも言い易いよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、手すりの設置、背丈に合わせた椅子の高さの調整等安全な環境づくりをしている。		